

エンタープライズ環境における Ultrabook™ デバイスの評価

エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスは、ユーザーがコンピューティング機器を常に持ち運ぶ必要がある場合など、特定のビジネス利用モデルを強力にサポートする機能を備えているとの評価が示されました。

Dave Buchholz

インテル IT 部門 プリンシパル・エンジニア

John Mahvi

インテル IT 部門 PC プランニング・ストラテジスト

Joe Thompson

インテル IT 部門 エンジニアリング担当
IT マネージャー

概要

インテル IT 部門では、新しいデバイスや形態（フォームファクター）の到来を予見し、これらのデバイスを購入して仕事に使用したいという社員の期待に応えるために、Ultrabook™ デバイスに関するデータを収集し、エンタープライズ環境への適合性の評価に努めています。

インテル IT 部門は、IT のコンシューマー化と、私たちの働き方としてのモビリティという概念の進化との間には強い関連性が存在すると考えています。一方で、私たちの調査では、すべてのデバイスが安全で生産性が高くビジネスへの利用に適したものではありませんことも示されました。今回の調査では、一般消費者向けの Ultrabook™ デバイスとエンタープライズ向けの Ultrabook™ デバイスの両方を評価し、それぞれが IT 環境にもたらすビジネス価値を判定しました。今後もユースケースとデバイスの機能を検討し、社員のニーズである利便性と生産性の最適なバランスがとれるのはどのデバイスかを確認していきます。

評価の結果、消費者向け Ultrabook™ デバイスは、ユーザーが毎日の生活で使用するには十分な機能を備えているものの、インテルの IT 環境では、セキュリティ、機能、自社環境への統合の面で問題があることが分かりました。

一方、エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスは、ユーザーがコンピューティング機器を常に持ち運ぶ必要がある場合など、特定のビジネス利用モデルを強力にサポートする機能を備えているとの評価が示されました。具体的な機能を以下に示します。

- 耐久性に優れたシャーシとコンポーネントの設計
- セキュリティと運用管理性に優れたインテル® vPro™ テクノロジー搭載プラットフォーム
- インターネットと WLAN への高速接続

この評価では、多くの消費者向けモデルに対して物理的テストが行われましたが、エンタープライズ向けモデルはそれほど多くありませんでした。2012 年の後半、多くのエンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスが発売された段階で、概念実証と試験導入プロジェクトによる評価およびテストを行う予定です。今後、エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスは多くの社員のメイン PC となり、さまざまなエンタープライズの需要、アプリケーション、データに安全にアクセスするための Bring-Your-Own PC（社員が所有する PC の利用）の有力な選択肢になることが予想されます。

目次

概要.....	1
背景.....	2
Ultrabook™ デバイスの評価	3
利用モデル	4
特長、形態、機能	4
次のステップ	5
まとめ.....	6
詳細情報	6
略語.....	6

IT@Intel

IT@Intel は IT プロフェッショナル、マネージャー、エグゼクティブが、Intel IT 部門のスタッフや数多くの業界 IT リーダーを通じ、今日の困難な IT 課題に対して成果を発揮してきたツール、手法、戦略、ベスト・プラクティスについて詳しく知るための情報源です。詳細については、<http://www.intel.co.jp/itatintel/> を参照してください。あるいは御社担当の Intel 社員までお問い合わせください。

Ultrabook™ の定義

Ultrabook™ は、Intel の新たなカテゴリとなる薄型軽量モバイル・コンピューターを表す商標です。Ultrabook™ デバイスは、最新のプラットフォーム・セキュリティ技術を基盤として、かつてないレベルの応答性と優れたバッテリー持続時間を実現し、4 分の 3 インチ (21mm) 以下という薄さを特徴とします。

低消費電力の Intel® Core™ プロセッサ・ファミリーを搭載したエンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスは、Intel® スマート・コネク・テクノロジーや、システムの高速起動を実現する Intel® ラピッド・スタート・テクノロジーなどの機能により、優れた応答性を発揮します。標準的なバッテリー持続時間は 5 時間を超えます。また、エンタープライズ向けの Ultrabook™ デバイスは、Intel® アンチセフト・テクノロジーや Intel® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジーなどのセキュリティ機能も搭載しています。

背景

Intel IT 部門は、IT のコンシューマー化は現実問題であり、私たちの働き方としてのモビリティ概念の進化と密接に結び付いていると考えています。そこで、ノートブック PC から、スマートフォンおよびタブレット、Bring-Your-Own (BYO) コンピューターに至るまで、さまざまなデバイスとそれらが IT 環境に与える影響について調査してきました。

消費者主導の技術革新が加速し、IT のコンシューマー化のトレンドがさらに浸透した結果、私たちの調査においても、ある特定のデバイスは安全で生産性が高く、ビジネスでの利用に適していることが判明しています。一方、ほとんどの消費者向けデバイスは、エンタープライズ環境での使用を想定した設計ではないため、IT 部門と社員の双方に対して予想外の問題を引き起こすことがあります。

- 消費者向けのデバイスとテクノロジーの多くは、ユーザーが毎日の生活で使用するには便利であっても、Intel の IT 環境では、セキュリティ、機能、自社環境への統合の面で問題があります。
- 統合の先にある利用モデルについても検討する必要があります。企業の利用モデルと個人の利用モデルでは要件が異なります。消費者向けデバイス用に設計された体験が、エンタープライズ環境に適切であるとは限りません。

Intel IT 部門は、過去 2 ~ 3 年にわたり、エンタープライズ環境で使用されるさまざまなデバイスを評価し、利用モデルとユースケース、デバイスの機能を検証してきました。そして、デバイスの評価から得られた、刻々と変化するテクノロジーと IT のコンシューマー化に対応するためのベスト・プラクティスや重要な教訓を発展させてきました。

この分析は、IT 部門と社員のいずれにも利益をもたらします。IT 部門は、このデータを使用することで、具体的な利用モデルに基づいた有効なテクノロジーやトレンドの統合化計画の立案が可能となります。また、社員とコミュニケーションをとることによって、エンタープライズ環境で使用するデバイスに対する IT 部門の要件を理解してもらうこともできます。この情報は自分のデバイス購入時の意思決定にも役立ち、自分自身のユースケース・シナリオに合い、利便性と生産性というニーズに適したデバイスを選択できるようになります。

以下のデバイスを対象に、評価と導入に向けた取り組みを行っています。

- **スマートフォン:** スマートフォンの業務使用に対する要求の高まりに応じて、Intel IT 部門は、複数のモデルの評価とテストを実施し、その一部に対するサポートを導入しました。現在、Intel の社員の約 25% が、スマートフォンを使用して会社のデータとサービスにアクセスしています。

- **タブレット**: 現在は、個人所有のスマートフォンに使っているのと同じ小型形態(スモール・フォームファクター)エコシステムを使用するタブレットの利用を許可しています。インテルの社員が現在必要としているパフォーマンスとモビリティはノートブックPCから得られるため、BYO タブレットへの要求はそれほど広がっていません。現在タブレットを使用している社員は約 2,000 人にすぎません。しかし、メイン PC の用途をタブレットで補完する機会も検討されています。¹ プラットフォームの機能が進化につれて、インテル® アーキテクチャー搭載タブレットに対する要求や使用の機会が増えていくことが予想されます。
- **BYO PC (社員が所有する PC)**: タブレットと同様、(Apple* の Mac* コンピューターを除いて)個人所有の PC を業務にも使用したいという要求はそれほど広がっていません。これは、インテルの標準コンピューティング・プラットフォームによって最適なパフォーマンスとユーザー体験が得られるためです。しかし、インテルは、オフショア開発センターでの使用、委託業者や派遣社員による使用など、BYO PC のさまざまな利用モデルを検討し、特定のユースケース限定で導入しました。現在、BYO PC を使用している社員は数百人にすぎません。

インテル IT 部門は、今後も新しいデバイスと形態(フォームファクター)がもたらすビジネス面の利点を分析する一方、標準化されたコンピューティング・プラットフォームの革新に取り組み、社員のモビリティと生産性の向上、PC のサポートコストの削減を進めていきます。私たちは、10 年間の経験から、総保有コストを抑制するには定期的な PC の更新が非常に有効であることを学びました。インテルの標準コンピューティング・プラットフォームは、以下の重要なコンポーネントで構成されます。

- **インテル® Core™ vPro™ プロセッサ**: プロセッサ・テクノロジー、ハードウェア上の拡張機能、運用管理機能、セキュリティ技術を組み合わせて、PC の OS や電源の状態に関係なく、リモートから PC にアクセスし、監視、保守、運用管理を実行できます。

- **インテル® Solid-State Drive (インテル® SSD)**: 堅牢な信頼性、応答性に優れたパフォーマンス、優れたバッテリー持続時間、柔軟で拡張性の高いストレージを提供します。
- **演算量の多いアプリケーションやグラフィックス処理を多用するアプリケーション**を効果率的に実行できる、ハイエンドの CPU
- **信頼性の高い高帯域幅ネットワーク接続**をサポートするネットワーク接続コンポーネント

新しい形態(フォームファクター)の評価を通じて、インテル IT 部門は、各自が自由に選んだデバイスの使用を社員に許可した場合、標準的な機能の一貫性が損なわれ、基本的な生産性に影響が及ぶ可能性があることを学びました。消費者向けデバイスは、一部のニッチ用途に適合することはあっても、インテルの標準コンピューティング・プラットフォームと同じレベルのメリットは得られないと判断しました。

Ultrabook™ デバイスの評価

インテル IT 部門は、新しいデバイスや形態(特に Ultrabook™ デバイス)の到来を予見し、これらのデバイスを購入して仕事に使用したいという社員の期待に応えるために、Ultrabook™ デバイスに関するデータを収集し、エンタープライズ環境への適合性の評価に努めています。

従来の PC と同様、Ultrabook™ デバイスは、一般消費者を対象としたデバイスと企業ユーザーを対象としたシステムの 2 種類の製品が販売されています。過去 7 カ月にわたり、インテル IT 部門は、両方のクラスを評価し、そのビジネス価値を判定しました。エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスは、会社支給の PC であれ、自己所有の PC であれ、インテルの社員の大半にとって優れたモビリティ・プラットフォームになると判断しました。これらのデバイスは、インテルのエンタープライズ環境で必要とされるレベルの生産性、信頼性、セキュリティをサポートしています。

費用対効果に劣る BYO 手当支給

インテル IT 部門は以前、Ultrabook™ デバイスを含む Bring-Your-Own (BYO) PC 構想に、BYO 手当支給プログラムを導入するアイデアについて検討しました。当初は、こうした手当により、IT 部門の PC 更新予算を最適化でき、プラットフォームの選択肢と柔軟性が向上するため、投資収益が得られると考えられていました。

しかし、社員調査を実施した結果、BYO の促進とプログラム参加の奨励のために社員に手当を支給するモデルでは、インテル側のコストが大幅に増加することが分かりました。コスト中立的な手当が、手当支給プログラムの管理コストへの投資を正当化できるだけの高い参加率をもたらすとは考えられませんでした。

入念な調査と分析の結果、BYO PC への手当支給プログラムの費用対効果は、インテルと社員のいずれにとっても高くないことが判明しました。現時点では、BYO 手当の支給による PC プログラムをインテルの社員に提供する予定はありません。

¹ 『Improving Facility Operations with Intel® Architecture-based Tablets』(英語)などを参照してください。

インテル IT 部門:新しいテクノロジーを継続的に調査

インテル IT 部門は、新たに開発されたテクノロジーを継続的に調査し、エンタープライズ環境への適合性を評価しています。その目的は、ビジネス価値をもたらすデバイスとテクノロジーを自社環境に統合し、サポートすることです。

インテル IT 部門が調査している一般消費者向けデバイスとテクノロジーには、ノートブック PC と Ultrabook™ デバイス、デスクトップ PC とオールインワン PC、タブレット、スマートフォンなどの小型携帯端末、TV アプライアンス、インテル® ワイヤレス・ディスプレイ、ストリーミング・エンターテインメント・デバイスなどの消費者向け周辺機器、ソリッドステート・ドライブが含まれます。

また、コンテンツ同期およびデバイス・コンテンツ・サービス、ソーシャルメディア、オンライン・コラボレーション/コミュニケーション・ツールなど、さまざまな消費者向けソフトウェアおよびサービス製品の調査も続けています。

インテル IT 部門は、Bring-Your-Own Device (社員が所有する機器の利用) 構想、「IT のコンシューマー化」フォーカスグループ、インテル・コンピュート・コンテンツ・プログラムなど、IT のコンシューマー化に関する調査を行うさまざまなプログラムを支援しています。さらに、インテルの管理対象でないデバイスへのコンテンツ提供において、仮想化技術を利用することも検討しています。

IT ラボは、インテルの多くの製品グループと協力して、エンタープライズ環境における消費者向けテクノロジーのテストや、消費者向け環境におけるエンタープライズ・テクノロジーのテストを行っています。IT ラボのクライアント・チームは、さまざまな分野の消費者向けおよびエンタープライズ向けクライアント・テクノロジーを調査しています。米国内および世界各国に置かれたインテルのイノベーション・センターは、これらの調査活動をサポートしています。

利用モデル

Ultrabook™ デバイスの薄型軽量の本体と、インテル® vPro™ テクノロジーがもたらすリモート運用管理機能およびセキュリティー機能を組み合わせることによって、ユーザーがコンピューティング機器を持ち運ぶ必要がある場合など、特定の利用モデルにおいて大きな価値がもたらされます。インテルの社員の職場環境がさらなるモビリティへと移行していくにつれて、このような利用モデルはますます一般的になり、社員がオフィスとコラボレーション・エリアを共有する機会はさらに増えます。こうしたシナリオでは、電源コンセントが用意されていなかったり、他の誰かがすでに使用している状況も考えられます。自分のオフィスにドッキング・ステーションを持たない社員も少なくありません。

以下に、早期導入によってエンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスが効果を発揮するユースケースを示します (図 1)。

- **営業担当者の場合:** 顧客との打ち合わせを 1 日に何回も行わなければならない、デバイスを電源コンセントに接続して充電する時間を確保できません。そのため、優れたバッテリー持続時間、高速接続、情報セキュリティーが不可欠です。
- **移動の多い在宅勤務者の場合:** ワーク・ライフ・バランスのコンピューティング・モデルを利用して、通常は異なるスケジュールに


従って複数の場所で仕事をします。いつでもどこでも仕事ができるように、信頼性、耐久性、バッテリー持続時間に優れ、高性能のコンピューティング機能を備えた軽量のデバイスが必要です。

- **設備技術者の場合:** 電源コンセント、オフィスのデスク、LAN 接続ポートから離れた現場で作業するため、信頼性と応答性に優れた持ち運びに便利なデバイスを使用して、エンタープライズ・アプリケーションおよびデータにリアルタイムでアクセスする必要があります。


今後、エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスのユースケースはさらに拡大し、インテル社員の約 20% の更新サイクルに、エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスが組み込まれることが予想されます。

特長、形態、機能


表 1 に示すように、2011 年後半から発売されている消費者向け Ultrabook™ デバイスの評価では、ほとんどのデバイスにおいて、端末機器として安全で一貫性のあるサービスを提供するためにインテル IT 部門が必要とする基本機能が不足していることが判明しました。一方、2012 年後半から一般に発売されるエンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスには、企業向け利用モデルをサポートする機能が搭載される予定です。



営業担当者
顧客との打ち合わせを 1 日に何回も行わなければならない、デバイスを電源コンセントに接続して充電する余裕がない。
ニーズ: 優れたバッテリー持続時間、高速接続、情報セキュリティー機能を持つデバイス



移動の多い在宅勤務者
ワーク・ライフ・バランスのコンピューティング・モデルでは、異なるスケジュールに従って複数の場所で仕事をするのが一般的である。
ニーズ: 信頼性と耐久性に優れ、Wi-Fi* 接続機能を持つ、高性能のコンピューティング機能を備えた軽量のデバイス



設備技術者
電源コンセント、オフィスのデスク、LAN 接続ポートから離れた現場で作業する。
ニーズ: エンタープライズ・アプリケーションおよびデータにリアルタイムでアクセスできる、持ち運びに便利な応答性の高いデバイス

図 1. エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスの早期導入ユースケースの例

表 1. エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスと消費者向け Ultrabook™ デバイスの比較

ビジネス要件	エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイス	消費者向け Ultrabook™ デバイス
移動の多いユーザーをサポートする、リモート運用管理機能	<ul style="list-style-type: none"> インテル® vPro™ プラットフォームにより、リモートからの運用管理と情報セキュリティをサポート。 リモート KVM (キーボード、ビデオ、マウス) 制御とリモートからの暗号化管理機能により、暗号化されたハードディスク・ドライブやソリッドステート・ドライブを搭載したシステムに対しても、いつでもどこでもシステムを迅速に修復可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ハードウェア・ベースの管理機能は搭載していない。
一貫性のあるプラットフォームとコンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> インテル® ステータブル・イメージ・プラットフォーム・プログラムにより、一貫性と信頼性を保証。 	<ul style="list-style-type: none"> 一貫性のあるプラットフォームや信頼できる世界規模の利用可能性は得られない。同じ構成が世界中で利用可能であるとは限らず、コンポーネントが頻繁に変更されるため、テストと統合作業の負担が大きい。
仮想化機能	<ul style="list-style-type: none"> ダイレクト I/O 向けインテル® バーチャライゼーション・テクノロジーにより、タイプ 1 ハイパーバイザーなどの新しい仮想クライアント・モデルをサポート。 	<ul style="list-style-type: none"> ダイレクト I/O 仮想化をサポートしていないか、またはサポートが不十分。
いつでもどこでも利用できる、柔軟で信頼性の高い高速接続機能	<ul style="list-style-type: none"> インテル® vPro™ テクノロジーとインテル® スマート・コネクト・テクノロジーをサポートする、信頼性の高い高性能デュアルバンド (2.4/5GHz)、マルチストリーム (2x2) インテル® Wi-Fi アダプター インテル® ワイヤレス・ディスプレイ (インテル® WiDi) により、他の任意のインテル® WiDi レシーバーへの安全なフル 1080p ビデオ転送を実現。 Thunderbolt™ テクノロジーと USB 3.0 により、周辺機器への高速接続を実現。 	<ul style="list-style-type: none"> シングルバンド (2.4GHz)、シングルストリーム (1x1) Wi-Fi* アダプターにより、ワイヤレス通信を限定的にサポート。 信頼性の高い構内ローミングではなく、シングル・アクセスポイントの家庭内および公衆無線 LAN スポットを重視。
インテルの要件に適合するセキュリティ機能	<ul style="list-style-type: none"> 公開鍵基盤 (PKI) 証明書認証機能を持つインテル® アイデンティティ・プロテクション・テクノロジーにより、ID の盗用や不正なデータアクセスに対する保護を強化。 インテル® アンチセフト・テクノロジーの S3 レジューム認証保護機能により、盗難によるデータと資産の損失を防止。 インテル® トラストッド・プラットフォーム・モジュール (インテル® TPM) により、情報の保管と保護を強化。 	<ul style="list-style-type: none"> セキュリティ管理機能は十分ではない。
データの同期のサポート	<ul style="list-style-type: none"> スマートコネクトなどの機能により、プラットフォームがデータストレージや電子メールなどの情報を端末機器上で常に同期させることで維持。 	<ul style="list-style-type: none"> ドッキング (またはドッキング型の) シナリオを限定的にサポートするが、エンドユーザーがワークステーションを使用するたびに複数のプラグを使用しなければならず、データの同期をとるのが面倒。
さまざまな周辺機器とユースケースのサポート	<ul style="list-style-type: none"> 外部標準モニターポートにより、会議室のプロジェクターに接続可能。 追加の USB ポートにより、外付けキーボードやマウスを接続可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの機種では、複数のカスタム・モニター・ケーブルとディスプレイ・アダプターが必要。 プラットフォーム上で利用できるポート数が限られており、多数の周辺機器を使用するには USB ハブが必要。
高い信頼性と複数年にわたる更新サイクルに対応した設計	<ul style="list-style-type: none"> ハイエンドのコンポーネントを使用して、バッテリー持続時間、堅牢性、使いやすさを向上。負荷の大きい毎日のビジネスでの利用を想定した設計。 	<ul style="list-style-type: none"> ディスプレイ、ヒンジ、シャーシ、キーボード、ストレージ用のコンポーネントが使用されていないか、または不十分。
一貫性のある保証サポートと注文プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 標準的な購入プロセスとサポートプロセスを利用可能。 	<ul style="list-style-type: none"> サポートの確保が難しく、故障発生時のダウンタイムが長い。 通常の購入チャネルを使って調達することが難しい。

次のステップ

2012 年 7 月には、Ultrabook™ デバイスメーカーからエンタープライズ向けモデルの出荷が開始されます。インテルの早期評価は、Ultrabook™ プラットフォーム設計仕様に基づいて行われました。モデルが実際に利用可能になった時点で、設計の耐久性、インテル® vPro™ テクノロジーの運用管理機能とセキュリティ機能、接続機能など、

表 1 に示した各機能のテストを実施します。2013 年前半には、エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスに対する強いビジネスニーズを持つ特定の社員のグループで、エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスの利用を開始する予定です。

Ultrabook™ デバイスは新しい形態 (フォームファクター) であるため、イノベーションが急速に進んでいます。入力方法は、従来の

キーボードとマウスに加えて、ジェスチャー、音声、タッチ方式なども取り入れられています。革新的なデザインも、単純なクラムシェル型からさらに進化しています。コンバーチブル型モデルは、画面をキーボード上で回転・ロールしたり、ブルバックスライドすることができます。一部のモデルの画面はキーボードからの着脱が可能で、ユーザーは画面だけを持ち運び、タブレットとして使用できます。他のモデルでは画面を 360° 折り曲げる

ことができ、ディスプレイを背面にして、前面でキーボードを使用できます。今後、これらの新しいモデルについてもチェックと評価を続けていきます。

現時点では、エンタープライズ向けの Ultrabook™ デバイスを重視していますが、BYO デバイス構想の一環として、個人所有の消費者向け Ultrabook™ デバイスの使用を許可することも計画しています。しかし、自己所有の Ultrabook™ デバイスの使用については、ひとつ懸念もあります。BYO スマートフォンを使用する社員の場合、通常のテクニカルサポートは自分自身で行うことが予想されますが、自己所有の Ultrabook™ デバイスを使用する社員の場合、(Ultrabook™ は基本的には PC であるため)インテル IT 部門にそのテクニカルサポートを期待する可能性があります。

インテルの BYO デバイス構想の対象となる他のデバイスと同様に、Ultrabook™ デバイスについても、企業の環境で求められる機能上の要件や各種モデルの比較など、社員向けの教育を行っていく予定です。Ultrabook™ デバイスのテストおよび導入フェーズでは、こうした教育活動が不可欠です。

まとめ

インテル IT 部門は、他の多くの IT 部門と同様に、さまざまな消費者向けデバイス、テクノロジー、サービスのサポートを期待する社員からの強い圧力に直面しています。これらのデバイスやテクノロジーの多くは、毎日の生活で使用するには確かに便利ですが、企業の環境ではセキュリティ、機能、統合の面で問題があります。インテル IT 部門は、ノートブック PC、スマートフォン、タブレット、BYO コンピューター、最新の Ultrabook™ デバイスなど、さまざまなデバイスが IT 環境に与える影響について調査してきました。

従来の PC と同様に、Ultrabook™ デバイスは、一般消費者向けとエンタープライズ向けの 2 種類の製品が販売されています。過去 7 カ月にわたって消費者向け Ultrabook™ デバイスを評価した結果、消費者向け Ultrabook™ デバイスの多くは、インテルのエンタープライズ環境で必要とされる生産性、信頼性、セキュリティをサポートできるだけの機能を備えていないことが分かりました。

一方、エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスは、特にユーザーがコンピューティング機器を持ち運ぶ必要がある場合など、多くのエンタープライズ・クライアント利用モデルとして最適であると評価されました。エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスの重要な機能には、以下のものがあります。

- インテル® vPro™ テクノロジーに対応したインテル® プロセッサーで利用可能な、リモート運用管理機能とセキュリティ機能
- インテル® SSD を使用した、信頼性と応答性に優れたストレージ
- いつでもどこでも利用可能な、柔軟で信頼性の高い Wi-Fi* 接続
- 耐久性、信頼性、複数年にわたる更新サイクルに対応した設計

インテルのテストと分析により、消費者向け Ultrabook™ デバイスは、インテルの標準コンピューティング・プラットフォームと同じレベルのメリットを提供しないことが分かりました。したがって、消費者向け Ultrabook™ デバイスを、インテルの社員が現在メインのコンピューティング機器として使用しているエンタープライズ PC に置き換えることはできません。インテル IT 部門は、今後もテストと概念実証を行い、エンタープライズ向け Ultrabook™ デバイスのビジネス価値を検証していきます。そして、この取り組みの結果に基づいて、一部の社員がメインで使用するエンタープライズ

PC として、エンタープライズ向け Ultrabook™ PC を導入していく予定です。

詳細情報

関連トピックのホワイトペーパーについては、<http://www.intel.co.jp/itatintel/> を参照してください。

- 『エンタープライズ・コンピューティングの未来：コンピュート・コンティニュームへの対応』
- 『Improving Security and Mobility for Personally Owned Devices』(英語)
- 『Preparing the Enterprise for the Impact of Alternative Form Factors』(英語)
- 『Using TCO to Determine PC Upgrade Cycles』(英語)

インテル IT 部門のベスト・プラクティスの詳細については、<http://www.intel.co.jp/itatintel/> を参照してください。

略語

BYO	Bring Your Own (社員が所有する機器の利用)
SSD	ソリッドステート・ドライブ

この文書は情報提供のみを目的としています。この文書は現状のまま提供され、いかなる保証もいたしません。ここにいう保証には、商品適格性、他者の権利の非侵害性、特定目的への適合性、また、あらゆる提案書、仕様書、見本から生じる保証を含みますが、これらに限定されるものではありません。インテルはこの仕様の情報の使用に関する特許、著作権、知的財産権の侵害を含む、いかなる責任も負いません。また、明示されているか否かにかかわらず、また禁反言によるとらわずにかかわらず、いかなる知的財産権のライセンスも許諾するものではありません。

Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Core、Intel vPro、Thunderbolt、Ultrabook は、アメリカ合衆国および/またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の表示、商標または登録商標です。

インテル株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-1-1
<http://www.intel.co.jp/>

©2012 Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。
2012年10月

327711-001JA
JPN/1210/PDF/SE/IT/TC

